

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム とーか		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
電話番号	0834-62-1308	事業所番号	3571500168
法人名	有限会社 とーか		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 24 日	評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人 非常勤 8 人 (常勤換算 15 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	平屋	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 35,000 円	敷金	無	円
保証金	有 300,000 円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
その他の費用	月額	25,000 円		
	内訳	光熱水費		

(4) 利用者の概要 (7月24日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護1	2	要介護4	4
	要介護2	7	要介護5	1
	要介護3	4	要支援2	0
年齢	平均 85.5 歳	最低 65 歳	最高 99 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 山口内科医院 歯科 井本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)
この一年間、運営者、職員スタッフ全員一丸となって組織の体制やサービス全般にわたっての再構築に積極的に取り組まれている様子が伺われました。職員教育では、接遇、口腔ケア、ターミナルケア等の内部研修を重点的にを行い、日々のケアにその成果が表れていました。職員会議でのサービス改善への話し合いも多く行われ、特にヒヤリはっと報告書の改訂に伴う事故防止への取り組みは、利用者の安全の確保に繋がっています。

(特徴的な取組等)
家族会が3ヶ月に1回開催され、意見や要望を聞く機会が持たれている他、利用者や家族と一緒に参加できる行事が沢山実施されています。かかりつけ医の定期的な往診や緊急な場合の受診体制の確保はもとより、協力歯科医による定期的な口腔ケアの指導により、利用者の毎食後の口腔ケアが実施され、口腔内の清潔が保持されています。掃除ボランティアや傾聴ボランティアを受け入れることにより、地域への交流の輪が広がっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)
今年度は、職員体制も整備され、施設長、管理者が核となり職員教育にも力を入れておられます。ヒヤリはっと報告書の書式を改善し、職員同士で話し合いを多く持つようになり、事故防止に努めています。利用者の人権尊重については、接遇研修を重点的に行うなど、職員同士がお互いに気付いた事を教えあっています。

(今回の自己評価の取組状況)
自己評価表を職員全員に配布し、記入してもらい、後日、その評価表を回収し、施設長、管理者、主任でまとめています。その結果については職員会議で検討し、具体的な改善に向けて取り組んでいます。

(運営推進会議の取組状況)
運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生児童委員、福祉委員、自治会代表、家族会代表、職員で構成され、2ヶ月ごとに開催しており、利用者やサービスの状況報告の他、外部評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者からの意見、助言等をいただき、サービスの向上に努めています。

(家族との連携状況)
家族会を3ヶ月に1回開催し、家族からの要望や意見を聞いています。月に1回のホーム便りでの状況報告の他、面会時にも日々の記録等、利用者の暮らしぶりを伝えていきます。利用者の状況の変化があれば、すぐに電話で連絡をとり、状態の悪化が見られる場合には家族を交えて担当者会議を開くなど利用者の情報提供を積極的に行っています。

(地域との連携状況)
ホームのある自治会は、新しくできた自治会で、ホームとして参加できる行事もまだ多くありませんが、総合的な地域密着型サービスを目指す法人の姿勢は少しずつですが、地域に広がりを見せています。地域の民生委員やボランティアとの交流なども盛んになっています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「惜福、分福、植福」という開設当初からの理念を基にしながら、その考えを地域全体に広げるよう総合的な地域密着型サービスを目指している。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念はホーム内に掲示されており、管理者、職員は職員会議や様々な場面の機会を捉えて理念を共有するとともに、日々のケアに活かされるよう積極的に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として自治会に加入し、「政所まつり」など地域の行事に参加している。近隣の住民とは散歩などで顔なじみになってきている。	・事業所としての地域との継続的な理解、交流促進の工夫
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に、自己評価や外部評価の意義を十分理解している。自己評価表は職員全員に配布し、記入してもらい、職員会議で検討して、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、外部の人の目を通して、ホームのサービス内容や具体的な改善課題について意見や助言等してもらい、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。推進委員を通して、ボランティア活動が広がっている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、事業所の抱えている課題について、施設長を中心に市と協力しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回、ホームの行事や利用者の写真を載せた「とーか便り」と健康管理報告書を送付しており、面会時や電話等でも利用者の健康状態や近況報告を行っている。金銭管理については、定期的に出納帳を確認してもらっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居時に苦情処理手続きの方法を記載した文書を渡しており、訪問時や電話等でも意見や要望などを聞き、その内容を運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関が明示されているが、第三者委員の明示がされていない。	・重要事項説明書等に第三者委員の明示
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤10名、非常勤8名の職員体制で、利用者の状況を見ながら職員で話し合い、急な休みや夜勤の交代などにも対応できる柔軟な勤務調整をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は利用者や職員がなじみの関係を続けられるよう職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしており、新しい職員の採用時には日勤や夜勤などにおいて重複対応しながら、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、職員の経験・習熟度等に応じて受けることができるよう配慮され、研修内容については職員会議で報告している。内部研修も、職員からのアンケートや要望を聞きながら熱心に行っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や周南ブロック研修会、近隣のグループホームの学習会などに参加し、職員同士の交流や情報交換を積極的に行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ホームに慣れるまでは、家族の方の訪問を多くしてもらうなど、できるだけ利用者と馴染みの関係を築き、サービスを安心して受けられるよう心がけている。新規の利用者には、見学や体験利用もできるよう工夫されている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者と一緒に過ごすことを大事にし職員はできるだけ利用者寄り添いながら、日常の家事やレクリエーションを行い、支えあう関係を作っている。利用者本位ということをおぼろげなく、利用者から学ぶ姿勢を大事にしている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ケアプラン作成前に、利用者や家族から希望や意向を聞くようにしており、日々のかかわりの中でも、何気ない会話や表情から利用者の思いなどを把握するよう努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>サービス担当者会議を毎月開催し、利用者の要望、面会時や電話連絡時の家族からの意見、職員のケア日誌での気づき等を参考にしながら介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月に1回介護計画期間での見直しを行うとともに、利用者に変化が生じた場合は、利用者や家族の要望を取り入れ、現状に即した検討見直しを行っている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族が対応できない場合の通院介助や、買い物などの外出の付き添いなど本人の状況や希望に応じて支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在の協力医療機関はかかりつけ医として利用者や家族に全員納得してもらっており、毎月1回の往診や随時の通院、緊急時の対応による協力を得ている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合における話し合いの場を主治医や家族、関係者ともつようにしており、ホームとしても出来る限りその人の思いに寄り添うことのできる柔軟な対応を心がけている。職員研修でも、ターミナルケアを重点的に取り組んでいる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉や態度に充分気をつけるよう職員全員で話し合っており、接遇研修の中でも取り上げている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い適切に管理している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者一人ひとりの暮らしぶりを良く把握し、職員の都合を押し付けることなく、本人のリズムやペースで過ごせるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員と一緒に食事の準備をし、盛り付けて、楽しそうに食事をし、片付けなども役割分担をしながら過ごしている。調理の時には、職員が利用者から味付けを教わることもある。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は15時半から20時までの間で、毎日入れるようにしており、一人ひとりゆっくりと入浴できるように支援がされている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の暮らしの中で、一人ひとりの出来る力を引き出し、生活の張り合いとなるような場面作りをたくさん行っている。テレビ体操、嚙下体操、折り紙や貼り絵の他、クラブ活動として民謡、生け花、習字など工夫に富んだ活力ある生活の支援を行っている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常の散歩の他、利用者一人ひとりの希望や状況に合わせて、ドライブ(紫陽花、菖蒲、もみじ狩りや永源山公園、米泉湖など)や買い物など外出を楽しめる支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。職員会議では、施設長からやさしい言葉遣いや声かけに徹することへの注意や、かかりつけ医と相談して眠剤や安定剤などなるべく薬を減らしていくケアを心がけている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	昨年までは鍵をかけていた門扉について、日中はできるだけ鍵をかけないように心がけており、鍵をかけることについての弊害も職員は十分に理解している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部研修において、ヒヤリはっと報告に基づく利用者一人ひとりに応じた事故防止対策を話し合っている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、職員会議等でその対応について確認しているが、定期的な訓練の実施までには至ってない。	・事故発生対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回災害時のための避難・誘導・見守りの訓練を行っており、非常時に備えている。台風シーズン前には、非常食の準備など、備蓄の対応にも心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の服薬情報は一覧表に記載され、職員はきちんと把握している。服薬については、夜勤職員が準備し、日勤職員が再度確認をし手渡している。必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	協力歯科医による定期的な口腔ケアの指導もあり、食後一人ひとりの口腔ケアを実施しており、利用者の状態に応じた支援をしている。義歯は、夕食後に消毒をし保管している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取状況は把握され、カロリーや栄養バランスに配慮された食事が提供されている。水分補給は、暑いときや、入浴後などに声かけし、摂取の少ない利用者にはオリゴ糖を使うなど、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症についてのマニュアルを作成し、市の研修会への参加や、かかりつけ医からの情報、職員会議での申し合わせなど、感染症予防やその対策に取り組んでいる。	・感染症予防、食中毒防止への職員全体での統一された取り組み
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	明るい共用空間には、生け花や季節に応じた貼り絵や折り紙など利用者の作品が飾られ、中央のダイニングキッチンからは家事の音、料理の匂いがする生活感あふれる空間となっている。換気にも気を付け、不快な匂いもなく、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮がされている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に、持ち込むものについては家族と話し合っており、できるだけ利用者の使い慣れたもの、好みのものが置かれ、安心感を持って過ごせるよう心がけている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム とーか
所在地	周南市政所4丁目11番13号
電話番号	(0834)62-1308
開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (6月23日現在)

ユニットの名称	松ユニット			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 名	女性 9 名	
	要介護1	1	要介護4	3
	要介護2	2	要介護5	
	要介護3	3	要支援2	
年齢構成	平均 82.4 歳	最低 65 歳	最高 92 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフ全員に自己評価書を配布、各自で記入してもらい回収。施設長、管理者、主任でまとめ、職員会議にて検討を行なった。
評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日

【サービスの特徴】

当施設は静かな住宅外の中に位置し、周りは畑やたんぼに囲まれ季節を身近で感じていただいています。近くには商店街もあり、外出がしやすい環境にあります。ご利用の方はもちろんご家族の方との信頼関係を大切に『惜福、分福、植福』(謙虚な気持ちで尊厳を持って、毎日1回は笑っていただき、それを継続させること)を理念とし、日々利用者の方の笑顔を大切にケアにあたっています。家族の方のご協力が利用者の方のケアに良い影響を与えていると考え、ご家族の方とのコミュニケーションも大切に、面会時の情報交換はもちろん、毎月健康管理表に加え、担当スタッフから近況をお便りにて報告しており、ご家族の方からはお喜びの声をいただいています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>惜福、分福、植福を理念の柱とし、利用者の方が毎日を楽しく過ごしていただくことはもちろん、育った人材が地域で活躍できることを目標に人材育成に取り組んでいる</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>場面場面において理念に沿ったケアを具他的に助言、指導していく</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>運営理念を目のつきやすいところに掲示している</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>運営者は利用者、スタッフと食事を共にし、利用者の方とのコミュニケーションを積極的に図ると共に、スタッフの指導にもあたっている</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>スタッフ育成のための勉強会を開催するときには地域の方へも連絡し、参加を呼びかけている。</p> <p>今後様々な職種の講師に依頼したり、講義内容を幅広くし、より地域の方への理解を深めていきたい</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>挨拶はこちらから積極的にするよう全スタッフが心がけている。散歩のときなどは利用者の方を交えて近所の方との交流を支援し、近所の方からはお花をいただいたりと交流が少しずつ広がっていると感じるが残念ながら気軽に立ち寄りいただけではない</p> <p>門扉が閉鎖してる状態なので気軽に立ち寄ることが難しいと思われる。門扉の開放を現在取り組み中である</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>自治会への参加を希望しているのだが、当施設の所属する自治会は催しが少なく現在はあまり交流がないのが現実である。しかし地区のお祭りなどにはできるだけ利用者の方に参加していただくようしている</p> <p>自治会にこだわらず、地域の枠を広げていくよう検討中(近隣の幼稚園の行事見学の依頼など)</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>施設での行事際には、推進委員の方にご協力いただき、近所のお年寄りにも気軽にご参加いただけるよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価後、まとめたものをスタッフに開示し、職員会議の席で検討している。またハード面については早急に対応している	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、推進委員会の開催し、当施設の現状を報告したり、意見を伺ったりしている。回数を重ねるにつれ、活発な意見交換も行なわれるようになってきたり、ボランティア活動に繋がったりと推進委員会が内容の濃いものになってきている	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設長を中心に常に連絡をとり、助言をいただいている	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現時点では対象者がいないため研修などを行っていないが、施設長が受けた研修の回覧をしている。	今回の自己評価においてスタッフより機会があれば研修の機会を設けて欲しいと意見があり、今後研修を検討する予定
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する法令をまとめたものを回覧し、虐待への意識を高めてもらうよう努めている。小さな傷、些細な言動も見逃さないようスタッフ全員で意識してケアを行なっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	初回面接時には出来る限りご本人、ご家族と共に来所頂きお話をさせていただいている。実際に施設の中も見させていただき説明を行なっている	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方、またご家族からの意見は些細なことでも責任者へ報告し、敏速に対応することを心がけている	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には近況を報告するとともに、出来る限りケース記録を見ていただいている。金銭管理については定期的に金銭出納表に確認頂きサインをいただいている。職員の異動については家族会にて報告させていただいている	職員の異動などを施設便りで報告していくべきか検討。(施設便りは月に1回、家族会は3ヶ月に1回のため)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ケース記録の開示。家族の要求のあった場合は個別ファイルにまとめたケース記録を開示している		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居時に苦情処理の手続きの方法を記載した文書をお渡ししている。家族からのご意見は些細なことでも責任者へ報告、苦情と判断した場合は速やかに対処している		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や懇親会などの場において意見や提案を出来る限り聞けるよう努めている		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	出来る限り対応するよう努めている。急な通院や入院の際にはスタッフが快く残業や勤務変更を受けてくれている。また出来る限りフリーのスタッフを常時配置することで急な状況にも対応できるようにしたいが現時点では困難な場合もある		フリーのスタッフが常時確保できるよう検討中
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動についてはあまり行なっていないが、やむを得ず異動する際にスタッフ、利用者共に動揺することの無いよう、常日頃より両ユニットの交流を心がけている。離職についてもスタッフが働きやすいような職場であるよう常に配慮している		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は出来る限り参加してもらえよう、また同じスタッフばかりが研修に行くことのないよう研修内容に応じて計画している。スタッフも研修に対して積極的に参加してくれている。		研修の内容をより身につけるために、また研修内容を他スタッフへもフィードバックできるような取り組みを検討したい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	10代～60代と年齢も幅広く、男性スタッフも同人数配置している。若いスタッフは年配のスタッフから仕事以外で学ぶ機会も多く、また男性スタッフにしか対応できないこと、女性スタッフでなければ対応できないことなど多様に対応している。		若干松ユニットと梅ユニットの平均年齢にばらつきがあることから今後検討したい。
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣のグループホーム連絡協議会の勉強会に積極的に参加し、活用している。他グループホームの管理者等から受ける刺激も大きく、理念や取り組みなど参考にさせていただいている。		特に若いスタッフには他施設のグループホームスタッフとの交流の機会を、勉強会以外の場で設けてあげたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の際にははできるだけ近況などお話をするように努め、利用者の方の一つ一つの行為を共に喜んだり、解決すべきことがあれば共に考えたりさせていただいている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族とのコミュニケーションは密に行い、お一人お一人の家族の状況をスタッフ間で共有、配慮し関わるよう努めている		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居年数の長い方を中心に情報がスタッフ間で共有できていない部分有。(入居時に関わったスタッフが退職しており書類に残っていないため)ご家族との話からの言葉をケア記録に挙げたりスタッフ間で情報共有するよう努めているが途切れているのが現状である		情報を記録に確実に残す。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士のコミュニケーションの場を提供することを心がけている。トラブルの起こりやすい利用者の方については出来る限りスタッフが間に入りコミュニケーションを仲介している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院によりやむを得ず退去された方など、施設長を中心に定期的にお見舞いに伺うなど状況を確認している。先日ご家族の方の都合で他グループホームへ移られた方においてはご家族の方から近況をお知らせいただいたりと交流を続けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に相手の立場に立ちケアにあたるよう努めてはいるが、業務を優先している状況のあることは否めない		スタッフが余裕を持ってケアにあたる様な勤務体制の見直し。職員の意識統一に向けての指導、助言。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントにて情報収集し、スタッフ間で共有している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ある程度の日課はあるものの、お一人お一人のその日の状況、意向を優先するよう努めている。また身体状況もスタッフ間で情報共有し、その方にとって無理のないケアを検討し、行なっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向を考慮して作成するよう努めている。またかかりつけ医などの助言も参考にして取り入れている。	サービス担当者会議へのご家族の参加も検討していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のサービス担当者会議において、期間に応じての見直しを行なうと共に、見直し月ではない方においても状況に応じて見直しを行なっている。(身体状況の著しい変化、入退院による状態の変化時等)	事務処理の遅れから敏速に対応できていない部分有。サービス計画作成担当者の今後の最重要課題として取り組む
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの実施状況や気づき、ご本人の発した言葉、ご家族の意見などは個別記録にスタッフ各々が記載。計画作成担当者はそれをピックアップし計画に反映させるよう努めている	事務処理の遅れから敏速に対応できていない部分有。サービス計画作成担当者の今後の最重要課題として取り組む
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	?	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方をはじめ、近所の方やボランティアの方に協力頂いている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	勉強会や行事を開催する際には、近隣の方にも気軽に参加いただけるよう声を掛けている。見学、研修については利用者の方の状態を優先した上でできるだけ対応している。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		現在ターミナルケアについては詳細について検討中である。家族の意向、ケアプラン、急変時の対応など明確にし、ご家族、ご本人共に安心して終末期を迎えられるよう支援している状況である
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		現在ターミナルケアについては詳細について検討中である。家族の意向、ケアプラン、急変時の対応など明確にし、ご家族、ご本人共に安心して終末期を迎えられるよう支援している状況である
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>心がけてはいるが、危険を伴う場合には安全を優先させていた だいている。(居室の戸の一部開閉など)またスタッフ間で意識の統一が不十分な点があり、今後の課題として取り組んでいきたい</p>	<p>個人情報取り扱いについての研修を開催予定。プライバシーの保護についてはスタッフ間の意識が統一できるまでその都度指導していく。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>折に触れご本人の意向を引き出せるようケアにあたっている。意向を伝えることが困難な方に置いても極力引き出せるよう努力している</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>身体機能の低下により、出来る方が限られてはいるが、小さなことでも出来ることはスタッフ間で情報を共有し、出来る力を奪うことの無いよう努めている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご自分の意思を伝えられる方については配慮できているが、意向を伝えることが困難な方においては十分対応できているとは言い難い。特に入浴においてはスタッフの都合を優先してしまいがちである</p>	<p>入浴ケアの見直し。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>散髪は原則家族が馴染みの散髪屋にお連れして下さっているが身体機能の低下から美容院での散髪が困難な方も増えており、その方については移動理美容を理容している。最近ではお化粧していただく機会をできるだけ増やすよう努めている</p>	<p>化粧をすることが特別でなくなるような取り組み(気軽にできるよう用品の配置、随時の声掛けなど)</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>嗜好をできるだけ配慮し提供するよう努めている。できるだけご自分で食べていただくことに努め、盛り付け、調理、後片付けなど利用者の方にできるだけ行なっていただくようにしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>お酒、たばこについては現在提供していない。おやつについてはご希望があれば買い物などを利用してできるだけ対応するよう努めている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>オムツ使用は最終手段とし、出来る限りトイレで排泄していただくよう援助している。排泄表にて排泄状況をチェックし、その方に応じた排泄用品を使用している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	毎日入浴(夕方から夜にかけて)をモットーとして援助しているが、身体機能の低下などから、一人ひとりの希望を取り入れることが困難となっているのが現状である。		入浴ケアの見直し。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	昼間であってもご本人が希望されれば横になっていただくよう支援している。椅子に座りっぱなしとならないようソファや和室を活用している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来ている人は出来ているが、全員ではないのが現状である。		家族を中心とした情報収集。(センター方式の活用も検討)
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は金銭管理は施設にて行なっている。必要時にはすぐに対応できるようにしている。		他者の部屋へ間違えて入られる方がおられたりすることからトラブルが起こることが懸念されるため、現時点では金銭の所持は困難であると思われる。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩などできるだけ外へ出る機械を設けている。外出が困難な方でも玄関先で日向ぼっこをしたり、車椅子にて散歩に出かけたりと援助している。		室内での行事の日に転記が良いときには急遽外出するなど臨機応変な対応ができる体制づくり
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節に合わせて外出の行事を企画、実施してはいるが個別の対応は全員の方へはできていない。		今後の取り組みとしてご家族の協力も頂き、誕生月などにその方のなじみの場所や行ってみたい所への外出の支援を試みたい
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば対応しているが、こちらから働きかけることはしていない		毎月の家族へのお便りを送る際に、スタッフだけでなく利用者にもお手紙を書いていたいただきたい(スタッフによる代筆もあり)
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	コーヒーをお出しし、居室やホールなどご本人、ご家族の意向を伺いゆったりと過ごせる様援助している。コミュニケーション困難な方においては必要であればスタッフが間に入り仲介している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	随時対応		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	毎月の施設便りにて行事をお知らせ。外出行事やクリスマス会などの大きな行事の時には事前に参加を募り、出来るだけご参加いただくよう声をかけている	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	スピーチロックについては職員会議などでも意識的に啓発しているものの、すべてはなくなっていない。ドラッグロックについては、ご家族の協力のもと、かかりつけ医と相談し、安定剤や眠剤は極力減らすよう取り組んでいる。安全面からやむを得ず身体拘束を行なう場合(ベッドからお一人で降りれないように車椅子でガードする)には家族への同意を頂き、早急に拘束を解除できるよう努めている	引き続き職員への意識改革への啓発。眠剤や安定剤を減らすべくかかりつけ医、家族との相談の継続。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	門扉の鍵については現在日中の開放に向けて取り組み中。居室の鍵についてはこちらからかけることはない。ただ、ご自分で居室の鍵をかけられる方については夜間の安全の確保からも今後の検討課題である	門扉の開放。居室の鍵の必要性についての検討。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にスタッフ同士でやりとりし、利用者の方が今どこにおられるかを把握することに努めてはいるが、隣ユニットや外へ散歩に行かれていた際にスタッフが気づけていないことが時々あり。歩行不安定な方については特に見守りの必要がありスタッフ間での意識向上の必要あり	面会者の重複などでやむを得ず目の行き届かないことはあるものの、特に出入り口へ意識を集中できるようトレーニングを積む
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や薬剤、刃物など危険なものについては利用者の方の手の届かない場所へ保管している	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書を活用し、起こりうる危険の高いものについてはその都度スタッフ間で情報を共有し防止に努めるべく取り組んでいる	
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員会議においてマニュアルの実践	
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書についてはより今後の事故防止に活かせるよう、書式、方法を変更して現在取り組んでいる。ヒヤリハットについては報告書の活用までには至っていない。	ヒヤリハット報告書の活用

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		マニュアルの実践。スタッフ間での統一
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		マニュアルについて具体的に記載するよう整備

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門扉を開放する等現在取り組み中。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	生け花(利用者の作品)や観葉植物などで緑を取り入れる。季節に応じた飾りつけ(雛祭り、クリスマスなど)	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを増やして、ゆったりと過ごしていただくよう配慮。廊下や玄関など過ごしやすいスペースへ椅子を設置し、活用していただいている	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス以外は馴染みのものをお持ちいただき、ご家族の方、ご本人で自由に配置していただいている。	ご家族へ協力頂き、昔の写真やご家族の写真などで居室を飾りたい
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気には配慮している。天窓の活用、エアコンの使用などで不快の無いよう室温を調整している。居室の温度調整はその方に応じて行っている	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりの設置。段差の解消。畳の使用。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレのご案内。トイレの機能(ウォシュレットなど)へは説明書きをつけ混乱を防いでいる。居室の分かりにくい方へは居室入り口へ目印をつけている。タンスへの説明書き。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭へ家庭菜園。収穫は利用者の方にしていただいている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム とーか
所在地	周南市政所4丁目11番13号
電話番号	0834-62-1308
開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (6 月 23 日現在)

ユニットの名称	梅ユニット			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	1	要介護 4	1
	要介護 2	5	要介護 5	1
	要介護 3	1	要支援 2	
年齢構成	平均 88.5 歳	最低 83 歳	最高 99 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフ全員に自己評価書を配布、各自で記入してもらい回収。施設長、管理者、主任でまとめ、職員会議にて検討を行なった。
評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日

【サービスの特徴】

当施設は静かな住宅外の中に位置し、周りは畑やたんぼに囲まれ季節を身近で感じていただいています。近くには商店街もあり、外出がしやすい環境にあります。ご利用者の方はもちろんご家族の方との信頼関係を大切に『惜福、分福、植福』(謙虚な気持ちで尊厳を持って、毎日1回は笑っていただき、それを継続させること)を理念とし、日々利用者の方の笑顔を大切にケアにあたっています。家族の方のご協力が利用者の方のケアに良い影響を与えていると考え、ご家族の方とのコミュニケーションも大切に、面会時の情報交換はもちろん、毎月健康管理表に加え、担当スタッフから近況をお便りにて報告しており、ご家族の方からはお喜びの声をいただいています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>惜福、分福、植福を理念の柱とし、利用者の方が毎日を楽しく過ごしていただくことはもちろん、育った人材が地域で活躍できることを目標に人材育成に取り組んでいる</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>場面場面において理念に沿ったケアを具他的に助言、指導していく</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>今後様々な職種の講師に依頼したり、講義内容を幅広くし、より地域の方への理解を深めていきたい</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>門扉が閉鎖してる状態なので気軽に立ち寄ることが難しいと思われる。門扉の開放を現在取り組み中である</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>自治会にこだわらず、地域の枠を広げていくよう検討中(近隣の幼稚園の行事見学の依頼など)</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価後、まとめたものをスタッフに開示し、職員会議の席で検討している。またハード面については早急に対応している	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、推進委員会の開催し、当施設の現状を報告したり、意見を伺ったりしている。回数を重ねるにつれ、活発な意見交換も行なわれるようになってきたり、ボランティア活動に繋がったりと推進委員会が内容の濃いものになってきている	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設長を中心に常に連絡をとり、助言をいただいている	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現時点では対象者がいないため研修などを行っていないが、施設長が受けた研修の回覧をしている。	今回の自己評価においてスタッフより機会があれば研修の機会を設けて欲しいと意見があり、今後研修を検討する予定
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する法令をまとめたものを回覧し、虐待への意識を高めてもらうよう努めている。小さな傷、些細な言動も見逃さないようスタッフ全員で意識してケアを行なっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	初回面接時には出来る限りご本人、ご家族と共に来所頂きお話をさせていただいている。実際に施設の中も見させていただき説明を行なっている	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方、またご家族からの意見は些細なことでも責任者へ報告し、敏速に対応することを心がけている	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には近況を報告するとともに、出来る限りケース記録を見ていただいている。金銭管理については定期的に金銭出納表に確認頂きサインをいただいている。職員の異動については家族会にて報告させていただいている	職員の異動などを施設便りで報告していくべきか検討。(施設便りは月に1回、家族会は3ヶ月に1回のため)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ケース記録の開示。家族の要求のあった場合は個別ファイルにまとめたケース記録を開示している		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居時に苦情処理の手続きの方法を記載した文書をお渡ししている。家族からのご意見は些細なことでも責任者へ報告、苦情と判断した場合は速やかに対処している		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や懇親会などの場において意見や提案を出来る限り聞けるよう努めている		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	出来る限り対応するよう努めている。急な通院や入院の際にはスタッフが快く残業や勤務変更を受けてくれている。また出来る限りフリーのスタッフを常時配置することで急な状況にも対応できるようにしたいが現時点では困難な場合もある		フリーのスタッフが常時確保できるよう検討中
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動についてはあまり行なっていないが、やむを得ず異動する際にスタッフ、利用者共に動揺することの無いよう、常日頃より両ユニットの交流を心がけている。離職についてもスタッフが働きやすいような職場であるよう常に配慮している		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は出来る限り参加してもらえよう、また同じスタッフばかりが研修に行くことのないよう研修内容に応じて計画している。スタッフも研修に対して積極的に参加してくれている。		研修の内容をより身につけるために、また研修内容を他スタッフへもフィードバックできるような取り組みを検討したい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	10代～60代と年齢も幅広く、男性スタッフも同人数配置している。若いスタッフは年配のスタッフから仕事以外で学ぶ機会も多く、また男性スタッフにしか対応できないこと、女性スタッフでなければ対応できないことなど多様に対応している。		若干松ユニットと梅ユニットの平均年齢にばらつきがあることから今後検討したい。
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣のグループホーム連絡協議会の勉強会に積極的に参加し、活用している。他グループホームの管理者等から受ける刺激も大きく、理念や取り組みなど参考にさせていただいている。		特に若いスタッフには他施設のグループホームスタッフとの交流の機会を、勉強会以外の場で設けてあげたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		勤務によって、ゆっくり関われないことがあるので、少しでも時間をみつけ関わってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご面会時には、近況報告を行っている。ご本人を交えお茶を召し上がって頂いたり、和やかな雰囲気作りに努めている。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご面会時には、ご本人を交え思い出話などをするよう努める。定期的にお便りを送り、状況連絡を行っている。		
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の心に残る思い出話を聞いたり、問いかけたりする。散髪はなるべく馴染みの美容院を利用していただけるよう、ご家族に協力をお願いしている。		
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事、おやつの中には全員の顔が見えるようテーブルを配置し、誰とでも会話ができるよう努めている。おやつの際にもスタッフが共にお茶を飲み、すぐにトラブルに対応できるように努めている。		
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院によりやむを得ず退去された方など、施設長を中心に定期的にお見舞いに伺うなど状況を確認している。先日ご家族の方の都合で他グループホームへ移られた方においてはご家族の方から近況をお知らせいただいたりと交流を続けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望通りになるよう対応に心がけている。		スタッフが余裕を持ってケアにあたる様な勤務体制の見直し。職員の意識統一に向けての指導、助言。
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個々の資料をまとめて、保管している。		
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録や申し送り、情報交換を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族からの情報を共有しながら、毎月担当者会議の際、スタッフ間で話し合い、作成している。	サービス担当者会議へのご家族の参加も検討していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直ししているが、入院など変化が生じた場合には、その都度見直し、作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録だけではなく、毎日施設長も交えて申し送りを行ったりして、情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方をはじめ、近所の方やボランティアの方に協力頂いている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	勉強会や行事を開催する際には、近隣の方にも気軽に参加いただけるよう声を掛けている。見学、研修については利用者の方の状態を優先した上でできるだけ対応している。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		現在ターミナルケアについては詳細について検討中である。家族の意向、ケアプラン、急変時の対応など明確にし、ご家族、ご本人共に安心して終末期を迎えられるよう支援している状況である
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		現在ターミナルケアについては詳細について検討中である。家族の意向、ケアプラン、急変時の対応など明確にし、ご家族、ご本人共に安心して終末期を迎えられるよう支援している状況である
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	常に謙虚な気持ちで、敬意を持って接している。	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	声かけ、説明をして希望を聴き、納得できる生活を送っていただけるようにしている。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	ご本人の気持ちを大切にしながら、職員と一緒に、できる範囲で家事を手伝って頂いている。	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	入浴時間など難しい面も多いが、できるだけ希望にそえるようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	毎月、整容の日を決めている。散髪はご家族の協力のもと、なるべく馴染みの美容院に行っていただく。	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	毎食、職員と食事を共にし、会話を大切にしている。	スプーン使用の方については食器を工夫していきたい。
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	ご家族の持参された食品類はご希望に応じてお出ししている。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	必要な方には定期的に声かけし、トイレ誘導している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		引き続き職員への意識改革への啓発。眠剤や安定剤を減らすべくかかりつけ医、家族との相談の継続。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		門扉の開放。居室の鍵の必要性についての検討。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故等が発生した場合には、報告書を提出し、その後、スタッフ間で改善策等を話し合い、再発防止に務めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門扉を開放する等現在取り組み中。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	生け花(利用者の作品)や観葉植物などで緑を取り入れる。季節に応じた飾りつけ(雛祭り、クリスマスなど)	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを増やして、ゆったりと過ごしていただくよう配慮。廊下や玄関など過ごしやすいスペースへ椅子を設置し、活用していただいている	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス以外は馴染みのものをお持ちいただき、ご家族の方、ご本人で自由に配置していただいている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気には配慮している。天窓の活用、エアコンの使用などで不快の無いよう室温を調整している。居室の温度調整はその方に応じて行なっている	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりの設置。段差の解消。畳の使用。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレのご案内。タンスへの説明書き。声を掛けていただくよう説明文を居室に貼っている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭へ家庭菜園。収穫は利用者の方にしていただいている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない